

日本皮膚悪性腫瘍学会広報委員会からのお知らせ

MSLT 2 試験（悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節転移陽性例に対するリンパ節郭清の意義について）の結果に対する対応について

海外において、センチネルリンパ節転移陽性の悪性黒色腫を対象に、即時リンパ節完全郭清群と経過観察群（4ヶ月毎にエコーでリンパ節を評価、腫大しリンパ節転移が明らかになればリンパ節郭清）で無作為化比較試験（MSLT-2試験）が行われ、先ごろ最初の結果が報告されました。（Faries MB et al. Completion Dissection or Observation for Sentinel-Node Metastasis in Melanoma. N Engl J Med. 2017 Jun 8;376(23):2211-2222） primary end pointである悪性黒色腫特異的生存期間に関して、リンパ節郭清によるその延長は示されませんでした。

この結果から、センチネルリンパ節転移陽性の悪性黒色腫に対しては、今後、即時リンパ節郭清は行われなくなってくる可能性が考えられますが、現時点で、わが国において早急なその適応は、以下の理由で注意が必要と思われます。第一にMSLT-2において、わが国に多いALMがどの程度含まれていたかが不明です。占める割合は少なかったと考えられます。第二に、わが国の多くの施設で、センチネルリンパ節転移症例に4ヶ月毎のエコー検査が可能かどうか不透明です。第三に、今後この試験結果の続報が出てくる可能性が高いと思われますので、その時点で詳細を検討したほうがよいと考えられます。最後に、現在行われている術後補助療法の対象が、ステージ3の場合リンパ節郭清をおこなっていることを条件にしているため、急な方向性の変更は慎重であるべきと考えます。